

JICA 中国事務所ニュース

(2007年3月号)

1. 最近のトピック

(1)「JICA 長期研修員同窓会設立大会」開催！

3月2日(土)午後、「JICA 長期研修員同窓会設立大会」が北京華都飯店にて開催されました。当事務所の藤本正也次長を始めとする相互理解促進分野の担当、課題別の業務担当、青年海外協力隊の担当が同会議に参加しました。



(JICA 長期研修員同窓会設立大会の場面
2007.3.3 (土) 華都飯店にて)

JICA では、1999 年から高等教育による人材育成のための長期研修制度が始まり、この制度を通じて日本に研修した中国の青年はこれまで約 60 名のほります。これら研修員の内、50 数名はすでに帰国し、中国各地で大活躍しています。

今般、帰国したこれら長期研修員 OB・OG の積極的な働きかけにより、「JICA 長期研修員同窓会設立大会」が開かれました。同設立大会には、長期研修員 25 名、中国科技部、中国商務部、日本大使館、JICA 中国事務所、日本人専門家等合計 55 名の関係者が出席しました。

同設立大会では、同窓会会則や年度活動に対しての検討が行われ、理事会メンバーを選出しました。さらに、会員は個人の研修生活、帰国後の発展について、それぞれ紹介し、今後の活動内容に対して、熱烈的なディスカッションを行いました。

JICA は日本政府による ODA の実施機関として、中国でより多くの人材を育成するために日々努力しており、長期研修員は中日両国間の技術協力の結晶として、今後必ず大きな役割を果たされるものと確信しています。今後は、この同窓会の機能を活かして、研修員間、研修員と JICA、研修員と日本人のそれぞれの連携を一層強め、日中両国各分野の交流・協力を促進することを期待しています。

なお、本同窓会の HP

(<http://www.jica-alumni-china.com/>) ができあがっ

ので、ぜひご覧ください。

JICA 中国事務所としては、長期研修員同窓会の活動に対して、引き続き支援を行っていく予定です。(相互理解班/李瑾)



(JICA 長期研修員同窓会設立大会
出席者全員記念写真)

(2)太湖水環境プロジェクトが終了！

2007年3月31日をもって、2001年5月から開始され、約6年間のプロジェクトとなった「太湖水環境修復モデルプロジェクト」が終了しました。

このプロジェクトは中国環境科学研究院(環科院)、江蘇省、無錫市の環境保護庁がカウンターパート機関となり、太湖流域の分散発生源からの生活系排水処理のための対策技術を研究・開発し、対象地域に認知されることを目的としたプロジェクトでした。2006年までは江蘇省太湖がプロジェクトサイトであり、高度処理浄化槽の実験を行いました。2006年からはプロジェクトサイトを北京に移し、高度処理浄化槽の性能評価装置を環科院内に設置し、浄化槽の評価を行うべく運転を開始しました。

私は江蘇省無錫市のプロジェクトサイトに1年前に出張に行ったことがあります。無錫旅情の歌と共に観光地として知られている太湖ですが、その水はお世辞にもきれいとは言えず、対策の必要性を感じました。特に、太湖のそばの民家の現状を見て回ったとき、生活排水の浄化を徹底する困難さと同時にこのプロジェクトの意義も実感しました。

プロジェクト期間中、長期専門家7名、短期専門家のべ77名という多くの専門家が派遣されました。す

べての方に感謝したいと思います。特に、後半の4年近くに渡り業務調整員を務められた岡田美和専門家には感謝申し上げます。岡田調整員は江蘇省無錫市から北京市に移転までされ、最後の1年間は一人でプロジェクトの調整を行われました。岡田さんのご尽力あって、関係者の多いこのプロジェクトが円滑に進んだと認識しています。事務所担当者としてこの場を借りて深くお礼を申し上げます。

水質汚濁の解決は、中国の環境問題の中でも最大の課題の一つです。今後、性能評価装置を活用した排水処理技術の研究と技術開発が更に進展することを望んでいます。(事業統括班/大久保)

(3)JOCV 紹介プレスツアーの実施！

3月7日(水)から9日(金)の日程で、湖南省において協力隊事業を紹介するためのプレスツアーを実施しました。

参加していただいたのは、人民日報の崔記者、人民網の陳記者、中国青年報の戴記者、日本僑報社の周記者の4名でした。

記者の皆さんは朝早くから夜遅くまでフルに詰まったハードスケジュールの中で、協力隊事業に大変高い関心を持っていただき、訪問した各所において、中国側配属先や隊員に対していろいろな質問をしたり、隊員の配属先である学校や幼稚園などの授業風景や住居などの写真を撮ったりして、大変熱心に日程をこなしていただきました。



夜11時過ぎまで実施した名嘉真隊員配属先とマスコミの方々との意見交換会の様子

なお、今回初の試みとして、具体的なツアーの様子については、ツアーで訪問した名嘉真麻希隊員(美術)が手書きのエッセイ&可愛いイラストで紹介記事を作成してくれましたので、別添の記事を是非ご覧下さい！

今回のツアーではあくまで事業を紹介することに主

眼を置いており、各紙での報道は「可能であれば」ということでしたが、皆さん、紙面やネットで記事を執筆いただき、結果的にも非常に広報効果の高いツアーとなりました。今後ともこのような形でマスコミの方に対して、JICA 事業をより広くアピールしていきたいと考えています。

(4)「日中学術交流会」開催！

李小年氏は2002年～2005年の間、JICA 長期研修員として九州大学法学府で国際経済・ビジネス法の博士課程を修了し、博士号を取得した長期研修員OBです。

上海社会科学院は李小年氏の研修成果を知らせるため、2007年3月に上海で「日中海商法学会セミナー・上海社会科学院海商法研究センター設立大会」(3/2-3/3)及び「日中学術交流会」(3/9-3/10)を開催しました。



「日中学術交流会」の様子
2007.3.9(金) 上海社会科学院

セミナー開催と併せて、上海社会科学院法学研究所と九州大学法学府との間の学術交流協定締結式も行われました。(日本留学期間中の同研修員の働きかけによるもの)

まず、日中海商法学会セミナーにおいて、李小年氏の発表に続いて、九州大学法学府国際経済・ビジネス法の教授2名、中国国内の専門家、学者、政府関係者を招き、海商法整備についての学術交流を行い、日中双方の海商法商品運輸・海上運輸業管理法体系の比較研究の成果が発表されました。このような交流は、今後中国の関連法整備の参考となる価値が非常に高いと思われます。(なお、上海社会科学院で設立された海商法研究センターの主任には、この李小年氏が就任しています。)

また、上海社会科学院で「日中学術交流会」が行われました。同会議においては上海社会科学院法学研究所顧崇栄所長をはじめとする同院関係者、上海総領事館、上海対外科学技術交流センター、九州大

学、JICA 中国事務所及び法学分野学者を含め、合計 60 名近くの関係者が出席しました。



「日中学術交流会」主要参加者
左 1：李小年帰国研修員

JICA 中国事務所の古賀所長による挨拶の中では、長期研修員制度や留学生制度を紹介しつつ、本セミナーの開催を通じて日中関係者の交流・協力がより一層深まり、日中間の理解がより一層促進されることを期待する旨を述べました。さらに、研修担当の李瑾所員により JICA の事業概要ならびに協力案件の最新情報を提供しました。セミナー終了後、一部の参加者が JICA 事業（青年海外協力隊、研修員受入等）の詳細について質問をするなど、各参加者の JICA 事業に対する理解も深まったと思います。

その後、李小年氏が訪日研修成果の発表を行った後、顧肖榮所長より「中国新会社法及び新証券法」、九州大学法学府の安部道明教授より「国際貿易と WTO 日本政府の最近の補助金/相殺関税の事例」の発表があり、それに対して、出席学者が熱烈的なディスカッションを行いました。

今回は JICA 中国事務所として初めて帰国研修員の成果発表と学術交流に対する支援を行いました。このような帰国後の研修員に対する協力も非常に意義があると思われます。（相互理解班/李瑾）

2. 主な調査団（派遣中・派遣予定）（3月）

「中国住宅生態環境技術及び評価システム」プロジェクト事前評価調査 菅野団長（3.4-3.9）

中国鉄鋼業環境保護技術向上プロジェクト終了時評価調査（3.4-3.9）

水利権制度整備調査現地モニタリング調査団

伊藤団長（3.12-3.23）

首都周辺風砂被害地域植生回復モデル計画調査団（3.7-3.22）

3. 3月の主要行事

- 3/2 医療分野帰国研修員同窓会会員大会
- 3/3 長期研修員同窓会設立大会
- 3/7-9 JOCV 事業紹介プレストア（湖南省）
- 3/10-15 末延吉正広報アドバイザー訪問
- 3/15 太湖水環境プロジェクト終了時 M/M 署名
- 3/20 JOCV17 年度 1 次隊（現職参加隊員）帰国

4. 専門家・ボランティアコーナー

今月は、湖北省で活動している小谷香織隊員（日本語教師）からの投稿をご紹介します。

『アカデミックな街！？黄冈』

湖北省黄冈市は武漢の東に位置する地方都市だ。面積は東京都の約 8 倍にも及ぶため、地方によって方言や風習、特産物が異なってくる。

私の任地は黄州区という市政府があるところで、一番の中心地なはずなのだが、大して発展しているわけでもない。かと言って、いわゆる絵になるような貧困地区でもなく、実に中途半端なところだ。特に名物があるわけでもなく、観光地もない。



米屋のお兄さんもいつも難しい本を読んでいる

しかし、もちろん良い所はある。それは、「黄冈中学」！全国でも名だたる進学校で、『黄冈式』という参考書まで売り出されるほど、超有名校である。そのおかげで街にはアカデミックな雰囲気が漂っているとは、お世辞にも言えない。しかし、いつも英語や難しい本を眺めている米屋の兄ちゃんや、「日本語の授業を聴講したい」というコピー屋のおばちゃん、日本のテレビを見ては日本文化について聞いてくる肉屋のおじいちゃんなど、勉強(?)熱心な人が多い。

黄冈の自慢できるところは少ない。でも、雄大な長江と、素朴で優しい黄冈の人と、勉強には最適な環境(=誘惑が少ない)、これらはやっぱり「黄冈ならでは」で、私が大好きなのところだ。(湖北省黄冈市 17-2 小谷香織)

専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所 周南 (zhounan.cn@jica.go.jp) へてにお願いいたします。

2007年
3月7~9日

隊員から見た

プレスツア湖南。

作画: JOCVI7-3 名嘉真麻希 (湖南省攸县 美術)



はじめまして
 湖南省・株洲市郊外の職業訓練学校で美術を教えている名嘉真麻希と申します。
 任地で活動をはじめて1年弱になりますが、今回プレスツアーが私の任地・攸县まで来てくれました。その様子を皆様にも紹介したいと思います!(2007/3/18)

湖南って?

- 場所... 北京から省都・長沙まで1600キロ。
- 人口... およそ7000万人。(長沙は人口600万人)
- 名物... **辛い料理。麻辣金鍋臭豆腐**
- その他... 毛沢東の故郷。



私の任地・攸县は湘水がたくさんある所です。この様子。

私の任地へも来てくれました

なんでも派遣中の中国にて活動中の隊員9名のなかで、うちが着田舎。なので来てくれたと聞きました。



隊員のしたごと3。
 この機会も利用し、校長や先生方にこれからこの活動について話し合いを!

7日(水)、PM20:30攸县のホテル到着。
 热烈欢迎日本客人、新闻媒体记者及...
 場所は**政府の役人専用**につくられた**町一番のホテル**。食事もし任地ではじめてみる豪華さでびっくりしました。何やらが食事の席に招かれなかったのが残念...

私のデザインの授業を見学。最初学生達は私の方が緊張しました。記者が連日教室の中を回り、学生の作品のすずみ様子を見てくれたのがうれしかったです。学生達にとりて全国紙の記者と出会ったスゴイ経験!!

7日(水)、PM21:30~23:30 交流会。
 食事の後は交流会がもうからい学校側からの活動報告、質疑、JICA側から簡単な紹介がありました。記者の質問内容はどれもさるどて、9:30の私でした... JJICAスタッフの周南さんの天々夫、天々夫のはがまし、感謝!

8日(木)AM11:15~11:45 住居見学
 私の部屋にも来てもらいました。なぜか記者達は少しづつに私の写真をとっていました。何かそんなにくらしたんだら? 武隈さんはトイレ便器の上のシワをじっくり観察していました。

この3月中旬に日本で
職場復帰するゆきちゃん、スズキ

株州市内の幼稚園で教えている
藤原さん。この日は「スラム」作りを
していました。子供達はお各自に
入らず集中して作っていました。
早く作りおえとほめていたからです!

この機会に私も便乗し
て株州市の藤原由紀・
石原弓子隊員の活動を
みせてもらいました。
もうすぐ帰国する2人にとっては最後の現場



同じく株州市内の別の幼稚園で活動
中の石原弓子。子供達と歌を歌って、とま
ま楽しんでた。



記者さん達との
移動中の会話。

攸県から株州までの2時間半ほどの時間、記者さん達とたくさん
おしゃべりしました。戴さんの日本の印象は「清潔、トイレが開
放的、崔さんは「うどんがおいしい、親切、陳さんは「2年前に留
学したから中国と全くの様子がちがった」、などなど。皆さんとモロ
ンリで、私のつたない中国語に合わせて話してくれました。彼らの
今回のツアーの大きな印象は「隊員は空手の金剛三同主義」
をそのまゝ体現していた、ようです。
カウンターパートと一緒に仕事する石原
さん、アットホームな園長のかたや、
微笑む藤原さん、そして郊外で
生きる私の様子など、関心深く
見ていてくれました。

中国で活動中の隊員の多くが
教育現場で活動しています。
その中幼稚園、小学校教諭、
美術などの分野の隊員が苦悩
するのが「道具あつた」。自分の
生活費の中が費用を出して買
ます。おかげで何をかう
かと捨てないで、せが
つきました。(笑)
日本の子供達との作品
や文通交流など、みんな
工夫して頑張っています。

たまには言わせて
隊員の努力

100元全部で
高くないな
でも授業に
使いたいしな
どせよんは
苦悩中。

☆今回のプラスツアー同行の方々☆



皆さん、本当にありがとうとおっかれ様です!!